

の乳媪を夜衣におきて彼をアメリヤに匿したればアメリヤかれを殺さず、エホシバハヨロム王の女アハシアの妹にして祭司エホヤダバ妻なり、かくてヨアシハエホバの家に匿れて彼らどもに在る。この六年、アメリヤ國に王たりき。

第七年にいたりエホヤダバ力を強してエロハムの子アサリヤ、ヨハナンの子イゼニル、オベデの子アサリヤ、アザヤの子マアセヤ、シクアの子ニリシヤ、バチなどいふ百人の長等を招きて己で契約を結ぶ。是において彼らエザを行め、エザの一切の邑よりレビ人を集め、またイスラエルの族長を集めてエルサレムを歸り、而してこの會衆みな神の家をおいて王と契約を結べり、時にエホヤダバは言ける、アザヤの子アサリヤの孫の專らつきてエホバの宣まひしごとく、王の子位に即すべきなり、然るに彼ら斯なすべし、汝ら祭司およびレビ人の安息日に入きたる者、三分の一の門を守り、三分の一の家に居り、三分の一の基礎の門に居り、民のみなエホバの室の庭に居べし、祭司と奉事をするレビ人の外、何人もエホバの家に入べからず、彼ら聖者なれば、入てをを得るなり、民のみあ、エホバの殿を守るべし、レビ人のおの手に武器を執りて王を繞りて立べし、家に入る者、凡て殺すべし、汝ら、王の出る時にも、入る時にも、王ととも居れど、是をおいてレビ人およびエザの人衆、祭司エホヤダバが凡て命じたる如く、に行ひ、各各の手の人の安息日に入來べき者と安息日に出ゆべき者、を率ゑ居り、祭司エホヤダバ班列の者を去せざればなり、祭司エホヤダバ、神の家にあつて、大楯小楯を百人の長等に交し、一切の民をして、各々武器を手に執りて、王の四圍、お立ち、驛の右の端より、驛の左の端におよびて、壇と廟とらふて居、且、斯て、人衆王の子を携へ出し、之に冠冕を戴かせ、証詞をわたりて、王となし、祭司エホヤダバよび

るの子等、これに膏をさし、けり、而して、皆王長壽かれと言ふ、故にアメリヤ民と近衛兵と王を護る者、どの聲を聞き、エホバの室に入て、民の所に至り、廟に王の入口にて、この柱の傍に立ち、王の側に軍長と喇叭手立てり、亦國の民みな喜び、喇叭を吹き、謳歌者樂を奏し、先だてて、讚美を歌ひ、し、か、バ、ア、サ、の、衣を裂き、舞進なり、疲進なりと言ひ、時に祭司エホヤダバ、軍兵を統る百人の長等を呼出して、これに言ふ、彼をして、列の間を通りて、出しめよ、凡て彼が、人等を、もて、殺すべし、祭司の彼をエホバの室に殺すべからず、とて、斯いへる、あり、是をもて、之が、ために、路を、ひらき、王の家の、馬の、門の、入口まで、住しめ、て、其處にて、之を殺せり、○斯て、エホヤダバ、一切の民と王との間に、置れら、皆、エホバの、民と、ならん、と、の、契約を、結べり、是において、民みな、バ、ア、の、室に、ゆきて、之を、擲ら、の、壇、と、の、像を、打碎き、バ、ア、の、祭司、マ、ツ、タ、の、壇の、前に、殺せり、エホヤダバ、エホバの、室の、職事、を、祭司、レ、ビ、人の、手に、委ぬ、昔、ア、ビ、レ、ビ、人、を、班、列、に、わ、か、ち、て、エホバの、室、を、お、か、き、モ、セ、の、律法に、配、せ、ら、れた、る、所、に、た、が、ひ、て、歡喜、と、謳歌、を、も、も、て、エホバの、燔祭、を、獻、げ、し、め、た、り、今、この、ダ、ビ、デ、の、例に、倣ふ、彼、が、た、エホバの、室の、門、々に、看守者、を、立、せ、置、き、身、の、汚、れ、た、る、者、を、何、れ、により、て、汚、れ、た、る、に、も、あ、れ、凡、て、入、て、入、こ、を、得、ざ、ら、し、む、二、期、て、エホヤダバ、百人の、長、等、と、貴族、と、民の、牧、伯、等、を、よ、び、國の、一切の、民を、率ゑ、て、エホバの、家より、王を、導、き、上、の、門より、して、王の、家、に、い、り、王を、國の、位、に、坐、せ、し、め、た、り、三、期、し、か、バ、國の、民みな、喜、び、て、邑、ハ、平、穩、な、り、き、ア、メ、リ、ヤ、の、劍、に、て、殺、さ、る、

ヨアシハ七歳の時位に即き、エルサレムにて四十年の間世を治めたり、その母ハベニルシバより出たる者、小して名をアヒアといふ、ヨアシハ祭司エホヤダバの世にある日の間、恒にエホバの善と觀たまふて、之を行へり、ニボヤダバのために二人の妻を娶れり、男子女子生る、此後ヨアシハ

室を修繕せんと志し祭司とレヒ人を集めて之に言けるハ汝ら出てユダの邑々に往き汝らの神エホバの室を修繕ふべき金子をイサエルの人もより聚むべし其事を匿にせよと然るにレヒ人てそれを匿にせざりき王エホヤヤ長を召てこれに言けるハ汝かなレヒ人に求めてエホバの僕モ一七およびイサエルの會衆の古昔詠詞の幕屋のために集めたるが如き税をユダとエラサレムより取きたらせざるやとカの惡き婦クアリヤの子等神の家を壊りかつエホバの家の諸の衆納物をバアルに供へたり是はおかいて王の命にたがひて一箇の櫃を作りエホバの室の門の外にこれに置きユダとエラサレムに宣布て汝ら神の僕モ一七が荒野おてイサエルのに課したる如き税をエホバに携へきたれと言けるに一切の牧伯等および一切の民みな喜びて携へきたらうの櫃に授いて遂に綱めをされりレヒ人の櫃に金の多くあるを見てこれをして王の廳に携へゆく時ハ王の書記と祭司の長の下役きたりてその櫃を傾むひ復てこれを取て本の處に持ゆけり日々に斯のごとくして金を聚むるごとき夥多し而して王とエホヤヤこれをエホバの家の處に修復せしめけるが工人動作てその工事を成へ神の室を本の狀に復してこれを堅固にすその既に成るにおよびて餘れる金を王とエホヤヤの前に持いたりければ其をもてエホバの室のために器皿を作れり即ち奉事の器獻祭の器および器ならびに銀の器を作れりエホヤヤの世に在る目の間ハエホバの室にて燔祭をさぐるごとき絶せりきエホヤヤハ年邁日邁て死り、その死る時ハ百三十歳なりき人衆ダビデの邑にて王等の中間にこれを葬し其ハ彼イサラエルの中に在りて神の殿をむかひて善事をおこなひたればなりエホヤヤの死たる後ユダの牧伯等きたりて王を拜す是に在りて王これに

ハ 王十二四
ニ 王十二四
ハ 王十二四
ハ 王十二四

王中二十五
ニ 王中二十一
ハ 王中二十一

ハ 王中二十一
ニ 王中二十一

ハ 王中二十一
ニ 王中二十一

ハ 王中二十一
ニ 王中二十一

ハ 王中二十一
ニ 王中二十一

ハ 王中二十一
ニ 王中二十一

ハ 王中二十一
ニ 王中二十一

ハ 王中二十一
ニ 王中二十一

禮をたがふ 彼らの先祖の神エホバの室を築てアサレ像および偶像に事入ればその愆のために愆惡ユダとエラサレムお臨りエホバかれらに己おひきかへさんどて預言者等を遣はし之にむかひて罰をたてさせたまひしかばそれにもかゝりて神の總祭司エホヤヤの子セカリアハ臨みければ民の前に高く起おがりて之に言けるハ神かく言ふ汝らエホバの愆を犯して眾神を招くハ何ぞや汝らエホバを棄たれんエホバも汝らを棄たねん然るに人衆かきを生せんと欲し王の命によりて石をもてこれエホバの室の庭おて擊殺せり 斯ヨシ王ハセカリアの父エホヤヤが己おぼはせごせし恩を念すしてその子を殺せり彼死る時おエホバてこれを願ひてこれを問詰したまへと言ひ かくてその年の終るに およびてアリヤの軍勢かれにむかひて攻め入りユダとエラサレムにいたりて民の牧伯等をこのく民の中より滅ぼし絶ちその掠取物を取てダマスコの王お遣れりこの時アリヤの軍勢ハ小勢おて來りけるおエホバ大軍をこき手に付したまへり是ハその先祖の神エホバを棄たるが故なり、斯かれらもユダを罰せり 斯アリヤも大傷をおはせて遣去けるがヨアシの臣僕等祭司エホヤヤの子等の血のため墓に葬らざりき 聖をせずびて之に叛き之をもの床の上お執して死しめたり、人衆てきをダビデの邑ハ新せり、但し王の王の子ヨザバヤなりき ヨアシの子等の事ヨアシの告られし預言および神の室を修繕し事を遂げり列王の書の註釋に記さる、ヨアシの子ヨアシヤこれに代りて王となり

第二十五章 アサレハ二十五歳の時位お即きエラサレムにて二十九年の間世を治めたり、この時ハエラサレムの者にして名をエホバブとといふ アサレハエホバの善と視たまふ事をなひしかばども

カ 王中二十一
ニ 王中二十一
ハ 王中二十一

ハ 王中二十一
ニ 王中二十一

ハ 王中二十一
ニ 王中二十一

ハ 王中二十一
ニ 王中二十一

ハ 王中二十一
ニ 王中二十一

ハ 王中二十一
ニ 王中二十一

心を空としてこれを爲ざりき。彼國のおのが手に堅く立つに、おまがの父王を弑せし臣僕等を殺せり。然るの子女等を殺さずしてモ、いせの書の律法を記せるごとく、爲り、即ちエホバ命じて言たまへく、父の子女の故によりて殺さるべからず、子女の父の故によりて殺さるべからず、各々の罪によりて殺さるべきなりと。○アマツヤエの父を集め、その父祖の家にあがひて、或は千人の長に附屬せしめ、或は百人の長に附屬せしむ。エホバとベニヤミンとも、然ら且二十歳以上の者を數へ、戈と楯とを執て、戦陣に臨む。強の士三十萬を得、また銀百ドラントをもて、イストラエルより大軍士十萬を備へり。時に神の人がこれに語りて、言ける、王よイストラエルの軍勢をして、汝に往しむる勿れ、エホバハイストラエルの人が、汝も、エホバの子孫と、併にいまさるなり。汝も、往しむる心強く、戦陣を爲せ、神をなす。をして敵の前に懸れしめ、たせ、九、神ハ、助くる力あり、また倒す力あるなり。アマツヤエ神の人にひける、然、ハバにイストラエルの軍隊に與へたる百ドラントを如何にすべきや、神の人答へける、ハエホバハ其よりも多きを汝に賜ふことを得るなりと。是においてアマツヤエのエホバより來りて、己に敵る軍隊を分離して、その處に歸らしめ、彼らエホバにむかひて、烈しく怒を發し、火のごとくに怒りて、その處に歸り、かくてアマツヤエ力を強く、その民を率ゐて、鹽の谷に往き、セイル人一萬を撃殺せり。エホバの子孫またこの外に、一萬人を生擒て、鹽の頂に曳、ゆき鹽の頂より、これを投おとし、これを微塵に碎けたり。前にアマツヤエが、己にとも、戰陣に往べからず、として、歸し、還たる軍卒等、サマリアより、ベテホロまで、エホバの邑々を襲ひ、八千人を撃つるし、物を多く奪ふ。○アマツヤエ、人々を襲て、歸る時に、セイル人の神々を携へ、來りて之を安置して、己の神とあし、その前に禮拜を命じ、之に香を焚り、是をもて、エホバアマツヤエにむか

口 王十五回下五五

王十五回下五五

王十五回下五五

王十五回下五五

王十五回下五五

王十五回下五五

王十五回下五五

王十五回下五五

王十五回下五五

王十五回下五五

王十五回下五五

王十五回下五五

王十五回下五五

王十五回下五五

王十五回下五五

王十五回下五五

王十五回下五五

王十五回下五五

王十五回下五五

王十五回下五五

王十五回下五五

王十五回下五五

王十五回下五五

王十五回下五五

王十五回下五五

王十五回下五五

王十五回下五五

王十五回下五五

王十五回下五五

王十五回下五五

王十五回下五五

ひて怒を發し、預言者をこれに遣はして、言しめ、たまひける、ハ、彼民の神々、己の民を汝の手より救ふことを得ざりし者なるに、汝なにとて之を求むるや、彼かく王に請れる、馬王これにむかひ、我儕故を王の議官となせしや、止、汝なを撃殺されんや、するや、と言ければ、預言者、す、あ、ち、止、て、言り、我、知、る、汝、の、事、を、行、ひ、て、吾、諫、を、聽、ひ、れ、ざ、る、に、よ、り、て、神、さ、ん、ち、を、滅、ぼ、さ、ん、と、決、め、た、ま、ふ、と。○、斯、て、エ、ホ、バ、の、王、ア、マ、ツ、ヤ、エ、相、議、り、て、人、を、エ、ホ、バ、子、エ、ホ、バ、の、子、な、る、イ、ス、ラ、エ、ル、の、王、ヨ、ア、シ、バ、に、遣、は、し、て、來、れ、我、儕、た、が、ひ、に、面、を、あ、せ、ん、と、言、ひ、し、め、け、れ、バ、イ、ス、ラ、エ、ル、の、王、ヨ、ア、シ、バ、に、言、お、く、り、け、る、ハ、レ、バ、ン、の、刑、株、か、つ、て、レ、バ、ン、の、楡、樹、に、汝、の、女、子、を、我、子、の、妻、に、與、よ、と、言、お、く、り、た、る、こ、と、有、し、レ、バ、ン、の、野、獸、と、ほ、り、て、う、の、刑、株、を、踏、た、ふ、せ、り、汝、ハ、エ、ホ、バ、人、を、撃、破、れ、り、と、謂、ひ、心、に、た、か、ふ、り、て、誇、る、然、レ、バ、汝、家、に、安、ん、じ、居、れ、何、う、神、を、惡、お、こ、し、て、自、己、も、エ、ホ、バ、も、ど、も、に、亡、び、ん、と、す、る、や、と、然、る、カ、ア、マ、ツ、ヤ、エ、聽、こ、と、を、せ、ざ、り、き、此、事、ハ、神、よ、り、出、た、る、者、に、て、彼、ら、を、う、の、敵、の、手、に、付、さ、ん、が、た、め、な、り、是、ハ、彼、ら、エ、ホ、バ、の、神、々、を、求、め、し、に、因、る、是、に、お、い、て、イ、ス、ラ、エ、ル、の、王、ヨ、ア、シ、バ、上、り、き、た、り、エ、ホ、バ、の、ベ、テ、ラ、エ、ル、に、て、エ、ホ、バ、の、王、ア、マ、ツ、ヤ、エ、と、面、を、あ、せ、た、り、し、ガ、エ、ホ、バ、イ、ス、ラ、エ、ル、に、撃、破、ら、れ、て、各、々、う、の、天、幕、に、逃、か、へ、り、爾、に、イ、ス、ラ、エ、ル、の、王、ヨ、ア、シ、バ、エ、ホ、バ、の、子、ヨ、ア、シ、バ、の、子、な、る、エ、ホ、バ、の、王、ア、マ、ツ、ヤ、エ、を、レ、バ、ン、に、執、へ、て、エ、ホ、バ、サ、レ、ム、に、携、へ、ゆ、き、エ、ホ、バ、サ、レ、ム、の、石、垣、を、エ、ホ、バ、の、門、よ、り、隔、の、門、で、四、百、キ、ユ、ヒ、ト、程、を、隔、ち、また、神、の、室、の、中、に、て、カ、ズ、エ、ト、ム、が、守、り、居、る、一、切、の、金、銀、か、よ、び、諸、の、器、皿、あ、ら、び、に、王、の、家、の、財、寶、を、取、り、か、つ、人、質、を、と、り、て、サ、マ、リ、ア、に、歸、れ、り、○、エ、ホ、バ、の、王、ヨ、ア、シ、バ、の、子、ア、マ、ツ、ヤ、ハ、イ、ス、ラ、エ、ル、の、王、エ、ホ、バ、の、子、ヨ、ア、シ、バ、の、死、て、よ、り、後、不、は、十五、年、生、存、し、た、り、ア、マ、ツ、ヤ、の、の、餘、の、始、終、の、行、爲、ハ、エ、ホ、バ、と、イ、ス、ラ、エ、ル、の、列、王、の、書、に、記、さ、る、く、に、あ、ら、す、ア、マ、ツ、ヤ、翻、へ、り、て、エ、ホ、バ、に、從、ふ、と、す、な

王十五回下五五

王十五回下五五

王十五回下五五

王十五回下五五

王十五回下五五

王十五回下五五

王十五回下五五

王十五回下五五

王十五回下五五

王十五回下五五

王十五回下五五

王十五回下五五

王十五回下五五

王十五回下五五

王十五回下五五

王十五回下五五

王十五回下五五

王十五回下五五

王十五回下五五

王十五回下五五

王十五回下五五

王十五回下五五

王十五回下五五

王十五回下五五

王十五回下五五

王十五回下五五

王十五回下五五

王十五回下五五

王十五回下五五

王十五回下五五

王十五回下五五

王十五回下五五

一 五十四年二月二十

日 曆十一〇五
代 世四九一〇
二 曆百〇九

本 代 世一〇六
一 曆八〇三作十〇十

一 五十四年二月三十

一 五十四年二月三十

一 五十四年二月三十

一 五十四年二月三十

一 五十四年二月三十

一 五十四年二月三十

りし後ユルサレムに於いて、彼を結びて敵する者ありければ、彼ラキミに逃ゆきけるに、ウラキミに人をやりて、彼を其處に殺さしめたり。人衆之れを馬に負せてきたり。ユダの邑にて、ウの先祖等どもに之れを葬りぬ。

第二十六章

是に於いて、ユダの民みな、ウシヤをとりて王とあしむるの父シヤに代らしめたり。時に年十六ありき。彼ニラテの邑を建てて之れを再びユダに歸せしむ。是かの王ガラの先祖等どもに、癩

りし後なりき。ウシヤの十六歳の時位、ユルサレムにて五十二年の間世を治めたり。ウの母ハユル

サレムの者にして名をエコリアといふ。ウシヤの父アシヤガ凡てあしたる如く、ユダの善と觀た

る人事を、行ひし神の默示に、明かりしかのセカリヤの世に於いて、エホバを求めたり。ウの

エホバを求むる間、神の黙示に、明かりしかのセカリヤの世に於いて、エホバを求めたり。ウの

石垣およびアベレクの石垣を、アベレクの地ならびに、アベレク人其の中間に邑を建て、神かれを助け

て、ベリシヤ人、グルバルに住むアベレク人、およびウシヤ人を攻撃せしめたり。アベレク人は、ウ

シヤに貢を納る、ウシヤの各ついに、エシヤの入口まで、廣まされり。其の甚だ強くなりければ、ウ

ヤエルサレムの門谷の門、および角隅に、成樓を建てて之れを堅固にし。また、荒野に、成樓を建て、許多の

水溜を掘り、其の家畜を多く有たればなり。亦、本野にも、平地にも、家畜を有り、又、山々、およびカハマルに、

農夫と、衛兵を修る者有り、農事を好みたり。書記ニ、イエルと、收伯マアセ

ヤの調査によりて、隙々にわかれて、戰爭に出づ。皆王の軍長ハナニヤの手に屬す。大勇士の族長の數ハ

都合二十六百。ウの手に屬する軍勢ハ、三十萬七千五百人。みな、大なる力をもち、戰ひ王を助け、敵に當る

械を案へ遣ら、えめ之を成樓および石垣に施して、之をもて、矢余らびに、大石を射出せり。是に於いて、ウの名

ウシヤの全軍のために、楯戈、兜、鐵、弓、および、投石器の石を備へ、彼多タニルサレムに於いて、工人に、機

織んとせり。時に、祭司アザリヤ、エホバの祭司たる勇者八十人を、率ゐて、彼の後に、去たがひ、大ウシヤ王

を、阻んで、これに、言けるハ、ウシヤ、エホバに、香を焚き、と、汝の、あす、べき、所、に、あらず、アロンの子孫に、まて

香を焚か、ために、潔められたる、祭司等の、あす、べき、所、より、出、り、汝、罪を、犯せり、エホバ、神、あ、ん、ち、に、樂

を、加へ、たまへ、と、是に、當りて、ウシヤ、怒を、發し、香鑪を、手に、とりて、香を、焚き、と、せし、が、ウの、祭司に、むかひ

て、怒を、發し、しる、間に、癩病、の、額に、起れり、時に、彼ハ、エホバの、室にて、祭司等の、前に、あたりて、香壇の、側なる

に、だせり、彼も、また、エホバに、已を、懸た、まへる、を見て、自ら、急ぎ、て、出、ま、り、ウシヤ、王ハ、ウの、死る、日、まで、癩病

人となり居しが、ウの癩病人となり、およびて、別殿に住り、エホバの室より、斷れたればなり、其子ヨム

王の家を管理て、國の民を審判り、ウシヤの、の、餘の、終終の、行爲ハ、アモツの子預言者イザヤ、て、之れを、書記

たり。ウシヤの、先祖等どもに、癩病、人なり、と、て、王等の、墓に、連接る、地にて、之を、葬り、て、

の先祖等ども、あらしむる、の子ヨム、これに、代りて、王となれり。

ヨムハ、二十五年の時位に、即き、ユルサレムにて、十六年の、間世を、治めたり、其母ハ、サドク

の女にして、名をエリスヤといふ。ヨムハ、ウの父ウシヤの、凡て、爲たる、ごとく、ユダの、善と、觀た、ま、し、事

一 五十四年二月三十

一 五十四年二月三十

一 五十四年二月三十

一 五十四年二月三十

一 五十四年二月三十

一 五十四年二月三十

一 五十四年二月三十

一 五十四年二月三十

一 五十四年二月三十

一 五十四年二月三十

一 五十四年二月三十

一 五十四年二月三十

一 五十四年二月三十

一 五十四年二月三十

一 五十四年二月三十

一 五十四年二月三十

一 五十四年二月三十

一 五十四年二月三十

一 五十四年二月三十

一 五十四年二月三十

一 五十四年二月三十

一 五十四年二月三十

一 五十四年二月三十

一 五十四年二月三十

一 五十四年二月三十

一 五十四年二月三十

一 五十四年二月三十

一 五十四年二月三十

セル彼の所に來りしかども俄に力をうへかして反てこれを煩させり
 二 アハズエホバの家と王の家および
 敬伯等の家の物を取てアツスリヤの王に與へけれどもアハズを援ぐることをせざりき
 このアハズ王
 への困難の時を營りてます
 一 エホバに罪を犯せり
 即ち彼等の神々を擧るアヌコ
 の神々に犠牲を獻げり
 然るに彼ら我を助けんと
 然るに
 敬伯等ハかへつてアハズとイスラエルの全國を作す者となれり
 二 アハズ神の室の器皿を取聚めて
 神の室の器皿を切やぶり
 エホバの室の戸を開き
 エルサレムの隅々に凡て祭壇を造り
 三 エホバの一切の邑々に
 崇廟を造りて
 別神に香を焚き
 等してその先祖の神々ハエホバの忿怒を惹おかせり
 四 アハズの所の餘の終の
 行為およびその一切の行跡ハユダとイスラエルの列王の書に記さる
 五 アハズの先祖等とともに擧りた
 れバエホバの邑にこれを擧れり
 然るにイスラエルの王等の墓にりてこれを掘ゆかざりき
 其子ヒゼキヤ
 これに代りて王となる

第二十九章 エセキヤハ二十五歳の時位に即きエルサレムにて二十九年の間世を治めたる所の時ハセ
 カリヤの女にして名をアビヤといふ
 二 エセキヤハその父アビヤの凡てなしたる如くエホバの目に善と視
 たまふ事をなせり
 即ち彼の第一の年一月にエホバの室の戸を開き
 三 かつ之を修繕し
 四 祭司および
 レビ人を携さへりて
 五 車の廣場にこれを集め
 而して之にひひけるレビ人ハ我に聽け
 六 汝等ハ我の身を
 潔めて汝等の先祖の神々ハエホバの室を潔め
 七 掃を聖所より降され
 八 夫我らの先祖ハ罪を犯し我らの神々
 ホバの目に惡しと見たまふことを行ひて
 九 エホバを棄てエホバの住所に面を背けて
 十 後をこれに向け
 十一 また
 廊の戸を開き
 十二 燈火を消し
 十三 聖所に
 十四 イスラエルの神に香を焚かず
 十五 燔祭を獻げざりし
 十六 是をもてエホバの忿怒

1 王年六〇一
 2 王年六〇二
 3 王年六〇三
 4 王年六〇四
 5 王年六〇五
 6 王年六〇六
 7 王年六〇七
 8 王年六〇八
 9 王年六〇九
 10 王年六一〇
 11 王年六一一
 12 王年六一二
 13 王年六一三
 14 王年六一四
 15 王年六一五
 16 王年六一六
 17 王年六一七
 18 王年六一八
 19 王年六一九
 20 王年六二〇
 21 王年六二一
 22 王年六二二
 23 王年六二三
 24 王年六二四
 25 王年六二五
 26 王年六二六
 27 王年六二七
 28 王年六二八
 29 王年六二九
 30 王年六三〇
 31 王年六三一
 32 王年六三二
 33 王年六三三
 34 王年六三四
 35 王年六三五
 36 王年六三六
 37 王年六三七
 38 王年六三八
 39 王年六三九
 40 王年六四〇
 41 王年六四一
 42 王年六四二
 43 王年六四三
 44 王年六四四
 45 王年六四五
 46 王年六四六
 47 王年六四七
 48 王年六四八
 49 王年六四九
 50 王年六五〇
 51 王年六五一
 52 王年六五二
 53 王年六五三
 54 王年六五四
 55 王年六五五
 56 王年六五六
 57 王年六五七
 58 王年六五八
 59 王年六五九
 60 王年六六〇
 61 王年六六一
 62 王年六六二
 63 王年六六三
 64 王年六六四
 65 王年六六五
 66 王年六六六
 67 王年六六七
 68 王年六六八
 69 王年六六九
 70 王年六七〇
 71 王年六七一
 72 王年六七二
 73 王年六七三
 74 王年六七四
 75 王年六七五
 76 王年六七六
 77 王年六七七
 78 王年六七八
 79 王年六七九
 80 王年七八〇
 81 王年七八一
 82 王年七八二
 83 王年七八三
 84 王年七八四
 85 王年七八五
 86 王年七八六
 87 王年七八七
 88 王年七八八
 89 王年七八九
 90 王年七九〇
 91 王年七九一
 92 王年七九二
 93 王年七九三
 94 王年七九四
 95 王年七九五
 96 王年七九六
 97 王年七九七
 98 王年七九八
 99 王年七九九
 100 王年八〇〇

ユダとエルサレムに臨みエホバ彼等をして打たせよ
 一 されば汝等ハ我を打たせよ
 二 我を打たせよ
 三 我を打たせよ
 四 我を打たせよ
 五 我を打たせよ
 六 我を打たせよ
 七 我を打たせよ
 八 我を打たせよ
 九 我を打たせよ
 十 我を打たせよ
 十一 我を打たせよ
 十二 我を打たせよ
 十三 我を打たせよ
 十四 我を打たせよ
 十五 我を打たせよ
 十六 我を打たせよ
 十七 我を打たせよ
 十八 我を打たせよ
 十九 我を打たせよ
 二十 我を打たせよ
 二十一 我を打たせよ
 二十二 我を打たせよ
 二十三 我を打たせよ
 二十四 我を打たせよ
 二十五 我を打たせよ
 二十六 我を打たせよ
 二十七 我を打たせよ
 二十八 我を打たせよ
 二十九 我を打たせよ
 三十 我を打たせよ
 三十一 我を打たせよ
 三十二 我を打たせよ
 三十三 我を打たせよ
 三十四 我を打たせよ
 三十五 我を打たせよ
 三十六 我を打たせよ
 三十七 我を打たせよ
 三十八 我を打たせよ
 三十九 我を打たせよ
 四十 我を打たせよ
 四十一 我を打たせよ
 四十二 我を打たせよ
 四十三 我を打たせよ
 四十四 我を打たせよ
 四十五 我を打たせよ
 四十六 我を打たせよ
 四十七 我を打たせよ
 四十八 我を打たせよ
 四十九 我を打たせよ
 五十 我を打たせよ
 五十一 我を打たせよ
 五十二 我を打たせよ
 五十三 我を打たせよ
 五十四 我を打たせよ
 五十五 我を打たせよ
 五十六 我を打たせよ
 五十七 我を打たせよ
 五十八 我を打たせよ
 五十九 我を打たせよ
 六十 我を打たせよ
 六十一 我を打たせよ
 六十二 我を打たせよ
 六十三 我を打たせよ
 六十四 我を打たせよ
 六十五 我を打たせよ
 六十六 我を打たせよ
 六十七 我を打たせよ
 六十八 我を打たせよ
 六十九 我を打たせよ
 七十 我を打たせよ
 七十一 我を打たせよ
 七十二 我を打たせよ
 七十三 我を打たせよ
 七十四 我を打たせよ
 七十五 我を打たせよ
 七十六 我を打たせよ
 七十七 我を打たせよ
 七十八 我を打たせよ
 七十九 我を打たせよ
 八十 我を打たせよ
 八十一 我を打たせよ
 八十二 我を打たせよ
 八十三 我を打たせよ
 八十四 我を打たせよ
 八十五 我を打たせよ
 八十六 我を打たせよ
 八十七 我を打たせよ
 八十八 我を打たせよ
 八十九 我を打たせよ
 九十 我を打たせよ
 九十一 我を打たせよ
 九十二 我を打たせよ
 九十三 我を打たせよ
 九十四 我を打たせよ
 九十五 我を打たせよ
 九十六 我を打たせよ
 九十七 我を打たせよ
 九十八 我を打たせよ
 九十九 我を打たせよ
 一百 我を打たせよ

ユダとエルサレムに臨みエホバ彼等をして打たせよ
 一 されば汝等ハ我を打たせよ
 二 我を打たせよ
 三 我を打たせよ
 四 我を打たせよ
 五 我を打たせよ
 六 我を打たせよ
 七 我を打たせよ
 八 我を打たせよ
 九 我を打たせよ
 十 我を打たせよ
 十一 我を打たせよ
 十二 我を打たせよ
 十三 我を打たせよ
 十四 我を打たせよ
 十五 我を打たせよ
 十六 我を打たせよ
 十七 我を打たせよ
 十八 我を打たせよ
 十九 我を打たせよ
 二十 我を打たせよ
 二十一 我を打たせよ
 二十二 我を打たせよ
 二十三 我を打たせよ
 二十四 我を打たせよ
 二十五 我を打たせよ
 二十六 我を打たせよ
 二十七 我を打たせよ
 二十八 我を打たせよ
 二十九 我を打たせよ
 三十 我を打たせよ
 三十一 我を打たせよ
 三十二 我を打たせよ
 三十三 我を打たせよ
 三十四 我を打たせよ
 三十五 我を打たせよ
 三十六 我を打たせよ
 三十七 我を打たせよ
 三十八 我を打たせよ
 三十九 我を打たせよ
 四十 我を打たせよ
 四十一 我を打たせよ
 四十二 我を打たせよ
 四十三 我を打たせよ
 四十四 我を打たせよ
 四十五 我を打たせよ
 四十六 我を打たせよ
 四十七 我を打たせよ
 四十八 我を打たせよ
 四十九 我を打たせよ
 五十 我を打たせよ
 五十一 我を打たせよ
 五十二 我を打たせよ
 五十三 我を打たせよ
 五十四 我を打たせよ
 五十五 我を打たせよ
 五十六 我を打たせよ
 五十七 我を打たせよ
 五十八 我を打たせよ
 五十九 我を打たせよ
 六十 我を打たせよ
 六十一 我を打たせよ
 六十二 我を打たせよ
 六十三 我を打たせよ
 六十四 我を打たせよ
 六十五 我を打たせよ
 六十六 我を打たせよ
 六十七 我を打たせよ
 六十八 我を打たせよ
 六十九 我を打たせよ
 七十 我を打たせよ
 七十一 我を打たせよ
 七十二 我を打たせよ
 七十三 我を打たせよ
 七十四 我を打たせよ
 七十五 我を打たせよ
 七十六 我を打たせよ
 七十七 我を打たせよ
 七十八 我を打たせよ
 七十九 我を打たせよ
 八十 我を打たせよ
 八十一 我を打たせよ
 八十二 我を打たせよ
 八十三 我を打たせよ
 八十四 我を打たせよ
 八十五 我を打たせよ
 八十六 我を打たせよ
 八十七 我を打たせよ
 八十八 我を打たせよ
 八十九 我を打たせよ
 九十 我を打たせよ
 九十一 我を打たせよ
 九十二 我を打たせよ
 九十三 我を打たせよ
 九十四 我を打たせよ
 九十五 我を打たせよ
 九十六 我を打たせよ
 九十七 我を打たせよ
 九十八 我を打たせよ
 九十九 我を打たせよ
 一百 我を打たせよ

ユダとエルサレムに臨みエホバ彼等をして打たせよ
 一 されば汝等ハ我を打たせよ
 二 我を打たせよ
 三 我を打たせよ
 四 我を打たせよ
 五 我を打たせよ
 六 我を打たせよ
 七 我を打たせよ
 八 我を打たせよ
 九 我を打たせよ
 十 我を打たせよ
 十一 我を打たせよ
 十二 我を打たせよ
 十三 我を打たせよ
 十四 我を打たせよ
 十五 我を打たせよ
 十六 我を打たせよ
 十七 我を打たせよ
 十八 我を打たせよ
 十九 我を打たせよ
 二十 我を打たせよ
 二十一 我を打たせよ
 二十二 我を打たせよ
 二十三 我を打たせよ
 二十四 我を打たせよ
 二十五 我を打たせよ
 二十六 我を打たせよ
 二十七 我を打たせよ
 二十八 我を打たせよ
 二十九 我を打たせよ
 三十 我を打たせよ
 三十一 我を打たせよ
 三十二 我を打たせよ
 三十三 我を打たせよ
 三十四 我を打たせよ
 三十五 我を打たせよ
 三十六 我を打たせよ
 三十七 我を打たせよ
 三十八 我を打たせよ
 三十九 我を打たせよ
 四十 我を打たせよ
 四十一 我を打たせよ
 四十二 我を打たせよ
 四十三 我を打たせよ
 四十四 我を打たせよ
 四十五 我を打たせよ
 四十六 我を打たせよ
 四十七 我を打たせよ
 四十八 我を打たせよ
 四十九 我を打たせよ
 五十 我を打たせよ
 五十一 我を打たせよ
 五十二 我を打たせよ
 五十三 我を打たせよ
 五十四 我を打たせよ
 五十五 我を打たせよ
 五十六 我を打たせよ
 五十七 我を打たせよ
 五十八 我を打たせよ
 五十九 我を打たせよ
 六十 我を打たせよ
 六十一 我を打たせよ
 六十二 我を打たせよ
 六十三 我を打たせよ
 六十四 我を打たせよ
 六十五 我を打たせよ
 六十六 我を打たせよ
 六十七 我を打たせよ
 六十八 我を打たせよ
 六十九 我を打たせよ
 七十 我を打たせよ
 七十一 我を打たせよ
 七十二 我を打たせよ
 七十三 我を打たせよ
 七十四 我を打たせよ
 七十五 我を打たせよ
 七十六 我を打たせよ
 七十七 我を打たせよ
 七十八 我を打たせよ
 七十九 我を打たせよ
 八十 我を打たせよ
 八十一 我を打たせよ
 八十二 我を打たせよ
 八十三 我を打たせよ
 八十四 我を打たせよ
 八十五 我を打たせよ
 八十六 我を打たせよ
 八十七 我を打たせよ
 八十八 我を打たせよ
 八十九 我を打たせよ
 九十 我を打たせよ
 九十一 我を打たせよ
 九十二 我を打たせよ
 九十三 我を打たせよ
 九十四 我を打たせよ
 九十五 我を打たせよ
 九十六 我を打たせよ
 九十七 我を打たせよ
 九十八 我を打たせよ
 九十九 我を打たせよ
 一百 我を打たせよ

1 王年六〇一
 2 王年六〇二
 3 王年六〇三
 4 王年六〇四
 5 王年六〇五
 6 王年六〇六
 7 王年六〇七
 8 王年六〇八
 9 王年六〇九
 10 王年六一〇
 11 王年六一一
 12 王年六一二
 13 王年六一三
 14 王年六一四
 15 王年六一五
 16 王年六一六
 17 王年六一七
 18 王年六一八
 19 王年六一九
 20 王年六二〇
 21 王年六二一
 22 王年六二二
 23 王年六二三
 24 王年六二四
 25 王年六二五
 26 王年六二六
 27 王年六二七
 28 王年六二八
 29 王年六二九
 30 王年六三〇
 31 王年六三一
 32 王年六三二
 33 王年六三三
 34 王年六三四
 35 王年六三五
 36 王年六三六
 37 王年六三七
 38 王年六三八
 39 王年六三九
 40 王年六四〇
 41 王年六四一
 42 王年六四二
 43 王年六四三
 44 王年六四四
 45 王年六四五
 46 王年六四六
 47 王年六四七
 48 王年六四八
 49 王年六四九
 50 王年六五〇
 51 王年六五一
 52 王年六五二
 53 王年六五三
 54 王年六五四
 55 王年六五五
 56 王年六五六
 57 王年六五七
 58 王年六五八
 59 王年六五九
 60 王年六六〇
 61 王年六六一
 62 王年六六二
 63 王年六六三
 64 王年六六四
 65 王年六六五
 66 王年六六六
 67 王年六六七
 68 王年六六八
 69 王年六六九
 70 王年六七〇
 71 王年六七一
 72 王年六七二
 73 王年六七三
 74 王年六七四
 75 王年六七五
 76 王年六七六
 77 王年六七七
 78 王年六七八
 79 王年六七九
 80 王年七八〇
 81 王年七八一
 82 王年七八二
 83 王年七八三
 84 王年七八四
 85 王年七八五
 86 王年七八六
 87 王年七八七
 88 王年七八八
 89 王年七八九
 90 王年七九〇
 91 王年七九一
 92 王年七九二
 93 王年七九三
 94 王年七九四
 95 王年七九五
 96 王年七九六
 97 王年七九七
 98 王年七九八
 99 王年七九九
 100 王年八〇〇